

第 1 3 回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和 5 7 年 1 0 月 2 7 日（水）
午後 2 時 ～ 2 時 3 0 分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 宇宙分野における第 2 回日米常設幹部
連絡会議（S S L G）の開催について
4. 資 料
委 1 3 - 1 第 1 2 回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）
委 1 3 - 2 宇宙分野における第 2 回日米常設幹部
連絡会議（S S L G）の開催について
（案）

委13-1

第12回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和57年10月6日（水）
午後2時～2時10分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 昭和57年度8～9月期における人工衛星及び人工衛星打上げ用ロケットの打上げ結果の評価に関する審議について
4. 資 料
委12-1 第11回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委12-2 昭和57年度8～9月期における人工衛星及び人工衛星打上げ用ロケットの打上げ結果の評価に関する審議について（案）

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

井 上 啓次郎

大 塚 茂

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

“ 長官官房審議官

運輸大臣官房審議官

運輸省気象庁総務部長

加 藤 泰 丸

辻 栄 一

武 石 章

（代理：千田）

栗 山 昌 久

（代理：里見）

郵政省電波監理局審議官

高 橋 幸 男

（代理：木原）

宇宙開発事業団衛星設計第2グループ総括開発部員

市 川 洋

“ システム計画部計画課

向 井 正

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

吉 村 晴 光

“ “ 宇宙国際課長

中津川 英 雄

“ “ 宇宙開発課長

吉 野 隆 治

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨の確認

第11回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨案（資料委12-1）が確認された。

(2) 昭和57年度8～9月期における人工衛星及び人工衛星打上げ用ロケットの打上げ結果の評価に関する審議について

事務局より、資料委12-2に基づき説明が行われたのち、第四部会への審議付託が原案どおり決定された。

宇宙分野における第2回日米常設幹部連絡会議
(SSLG)の開催について(案)

昭和57年10月27日
宇宙開発委員会

宇宙分野における日米間の協力について、協力プロジェクトの促進を図るとともに、今後の新たな協力について意見交換するため、標記会議を下記のとおり開催する。

記

1. 日 時 昭和57年11月15日(月)

2. 場 所 NASA本部(ワシントン)

3. 出席者
(日本側)

齋藤 成文	宇宙開発委員会委員
加藤 泰丸	科学技術庁研究調整局長
大熊 健司	研究調整局調整課課長補佐
小田 稔	文部省宇宙科学研究所教授
廣田 史郎	学術国際局研究機関課研究調整官
栗木 恭一	宇宙科学研究所教授
若井 登	郵政省電波研究所所長
大沢 弘之	宇宙開発事業団副理事長
久保園 晃	国際室長
祖 一 紀雄	スペースシャトル利用推進室 調査役

前田 惟裕 宇宙開発事業団地球観測システム室副主任
開発部員

石田 寛人 在米大使館参事官
(米側)

James M. Beggs	NASA長官
Samuel W. Keller	宇宙科学応用局次長
Jeffrey D. Rosendhal	次長代理 (科学担当)
Isaac T. Gillam	宇宙飛行局次長代理 (政策担当)
Kenneth S. Pedersen	国際部長 他

4. 議 題

- (1) 宇宙開発計画の概要について
- (2) 日米協力プロジェクトの推進について
- (3) 宇宙基地計画について

5. その他

11月9日(火) SSLG予備会合、10日(水) ケネディスペースセンター訪問、11日(木) 同センターにおいて第5回スペースシャトル打上げ見学及び12日(金) ジョンソンスペースセンター訪問を予定している。

(参考1) 経緯

- 昭和53年 9月 熊谷宇宙開発委員会委員長(科学技術庁長官)とフ
ロッシュNASA長官との会談において、宇宙分野の
日米協力に関する専門家会議の設置が合意された。
- 昭和53年12月 3回の専門家会議が開催され、協力の可能性のある
17プロジェクト及び常設幹部連絡会議(SSLG)
の設置が宇宙開発委員会及びNASAに対して勧告
された。
- 昭和54年 6月
- 昭和54年 7月 金子宇宙開発委員会委員長(科学技術庁長官)とフ
ロッシュNASA長官との書簡交換により、上記勧告
を実施に移すことが合意された。
- 昭和55年11月 第1回SSLGが東京において開催された。

SSLG : Standing Senior Liaison Group

(参考2) 宇宙分野の日米協力プロジェクト

- 1 地殻プレート運動の研究
- 2 OPEN計画
- 3 ハレー彗星共同研究
- 4 土星探査計画
- 5 スペースラブでのライフサイエンス
- 6 共同テザープロジェクト
- 7 X線天文学
- 8 海洋ダイナミックス
- 9 衛星立体写真による雲高度の測定
- 10 積雪特性
- 11 蒸発算定の可能性
- 12 実験用通信衛星データの交換
- 13 太平洋横断気球観測プロジェクト
- 14 太陽共同研究
- 15 台風による風と波の研究
- 16 海洋生物資源
- 17 MOS-1データの受信

(参考3)

基本的な対処方針

1. 宇宙開発計画の概要について

我が国の宇宙開発計画について説明するとともに、米側から米国の宇宙開発計画について説明をうける。

2. 日米協力プロジェクトの推進について

既存の17プロジェクトの活動状況及び成果について相互に確認する。
新規プロジェクトとして、米側から「南極隕石の研究」(注1)について提案された場合には、本テーマは、既に日米非エネルギー協定の下で米側から提案され、協力実施の可能性について研究者レベルで検討を行っているという旨発言する。また「人工衛星レーザー測距による測地及び地球力学の研究」(注2)について、新規プロジェクトとして提案する方向で対処することとする。

3. 宇宙基地計画について

宇宙基地計画特別部会の設置等、我が国における宇宙基地計画検討状況について説明するとともに、米側から米国における同計画検討状況の説明をうける。

(注1)「南極隕石の研究」について米側提案の概要

1. 担当機関

(日本側) 文部省国立極地研究所

(米側) NASA

2. 協力の概要

国立極地研究所が南極のやまと山脈から収集した数千個の隕石等を対象として、同研究所とNASAジョンソンスペースセンター間で共同研究を行う。

(注2)「人工衛星レーザー測距による測地及び地球力学の研究」について日本側提案の概要

1. 担当機関

(日本側) 海上保安庁

(米側) NASA

2. 協力の概要

NASAの衛星を使用して、人工衛星測距の共同観測等を実施し、日本測地系の世界測地系への結合に資する。また衛星レーザー測距観測データの解析技術、衛星レーザー測距装置等に関する情報交換を実施する。